



仙台市リサイクル
シンボルマーク
「メビウスちゃん」



● 編集・発行 仙台市環境局廃棄物管理課
● 電話 022-214-8227

あなたとわたしの声をつなぐクリーン仙台推進員のコミュニケーション情報誌

グループ学習会「初めの一步編」を開催しました。.....	1P
リ-ス* こんにちは推進員さん⑱⑳.....	2P
推進員交流会を開催しました。.....	3P
仙台市環境局からのお知らせ.....	4P



グループ学習会「初めの一步編」を開催しました。

推進員対象のグループ学習会「初めの一步編」を、九月に、二日間コースで二回開催しました。二回合計で百二十六人の推進員が参加し、推進員活動を始めるに当たってのコツなどを学習しました。

講師は、地域社会デザイン・ラボ代表の遠藤智栄さんです。遠藤さんはまちづくりや環

メビウスちゃんの豆知識



Q 植木鉢と苗ポットは同じプラスチックでできていても出し方が違うって本当？

A 仙台市で分別収集しているのは、「プラスチック製容器包装」。つまりプラスチック製の容器や包装だけなんだ。苗ポットは苗の容器だから苗を使えば不用となり容器包装として出せる。でも植木鉢は植木鉢として使う用途で購入している商品だから、使わなくなったら普通にごみとして捨てるしかないんだ。花が植えてあった植木鉢も、そのまま鑑賞するために購入しているから容器にはならないんだよ。容器包装は製造会社がリサイクル費用を負担しているけど、プラ製品にはその義務が法律で決められていないんだ。それで仙台市はほかの市町村と一緒に、プラ製品もリサイクルを義務付けてもらいたいと国に要望を出しているんだ。

仙台市環境局 からのお知らせ

損壊したブロック塀の撤去の
受付は十一月二十日までです。

東日本震災により被害を受けた方々への支援と二次被害防止のために八月下旬から実施している「損壊したブロック塀の解体・撤

去」の受け付けが、十一月三十日で終了します。受付場所は、対象となる物件が所在する地域の区役所及び宮城総合支所の解体家屋受付窓口。対象となるのは、震災により損壊し倒壊の恐れのあるブロック塀で、個人または中小企業者等が所有するものです。コンクリートブロック造のほか、石垣や

レンガ造の塀も対象です。なお、既にご自身の負担で解体・撤去された方への費用助成もあります。●必要書類等詳細の問い合わせは「損壊家屋等の解体撤去」専用ダイヤル二六三・八五九〇へ

メビウスちゃんの豆知識拡大版を同封します。

今回のテーマは

「紙類その2」

仙台市ではメビウスちゃんの豆知識拡大版として、デザイン案やイラストなどの素材をお送りしています。チラシやポスターなどを作成する際にご利用ください。拡大版ではこれまで「ペットボトル」「紙類」「プラスチック製容器包装」「指定袋で出そう」等をテーマに素材を作成してきました。ホームページでも公開しています。が、これまでのものをご希望される方は、お住まいの区の環境事業所にご連絡ください。

環境事業所のご案内

- 青葉環境事業所 277-5300
- 宮城野環境事業所 236-5300
- 若林環境事業所 289-2051
- 太白環境事業所 248-5300
- 泉環境事業所 773-5300

〇〇〇編集後記〇〇〇

◆だんだん寒さが本格化してきましたね。これからは鍋の季節。そして風邪・インフルエンザの季節でもあります。あったかい食べ物で体からホカホカにして、寒い冬を乗り切りましょう。(中西)
◆先日の交流会と学習会で、たくさんの推進員さんにお会いできました。皆さんのパワーを感じたので、私も負けずにがんばります。(包)

境に関するワークショップ(合意形成や人材育成等の手法)や市民協働事業の促進役として、さまざまな場で活躍されている方です。初日は基調講話と、グループでの話し合いです。遠藤さんの「しかめ面」「これじゃ困ります」と伝えても、なかなか人はいうことを聞いてくれませんよね。責めない姿勢で、そして『ほがらかに』が大切ですね。「指導するのではなく相談に乗る、あるいは相談してみよう」というスタンスではいかがでしょうか。などの話に、皆さん真剣に耳を傾けていました。二日目は、推進員の先輩方が地域で実施している実例の紹介と、そこから学べるコツの解説から始まり、実際に地域で起こっている「こみに関する困りごとの対応策」をグループで話し合うという内容です。会場では「山の不法投棄っていつてもね。まずどこに連絡したらいいの」「マナー違反の人に上手に説明するためにはどうしたらいいの」などの声が。初めて推進員となった方が大半でしたが、みんな真剣に知恵を出し合いました。「まずは地域の現状を把握すること。そして、困ったことが出てきたら、まずは今日のように地域の推進員や町内会の仲間などと話し合うことこそ『初めの一步』に繋がります」(遠藤さん)

クリーン仙台推進員交流会を開催しました。



9月6日、8日と21日に、クリーン仙台推進員交流会を開催しました。3日間の合計で152人の方が参加。テーマは「こんな時だから、語ろう!」。初めは名刺交換タイム(写真左)。その後、日ごらの活動における悩みや成功事例、推進員としての想いのほか、3月11日の東日本大震災後における推進員としての活動などについても情報交換を行いました。

指定袋以外でのごみ出しを認めていた時期があったことで、現在でもまだまだ指定袋以外で出されて困っている地域もありました。反対に、迅速な推進員の対応で、誤ったごみの出し方を防ぐことができたという地域もありました。「テレビのテロップで情報が流れたといっても、



四六時中流れてるわけじゃないし。かといってじっとテレビの前にかじりついてるわけにもいかないからね。まずは環境事業所で一番最新の情報を教えてもらってポスターを貼り出したんですよ」

震災で被害がとても大きかった地域の方も、参加されていました。「隣の町内会まで津波が襲ってきたからね。とにかく避難所の運営があったから。ごみの話はその後だったよ」「震災で壊れた家具なんかも、町内会役員と推進員が協力して、震災ごみ仮置場に持ち込んでやったりしたんだよ」・・・。話は尽きることがありません。それぞれのテーブルでそれぞれの推進員が、自由にじっくり語り合う3時間となりました。

が、フタがついたままのペットボトルが多いことでした。「またポスターを貼ったとしても、集積所で気づいて外したフタの処理に困ってしまうから」と思ったので、ペットボトルのフタ入れを作ることになりました。

「集積所に吊るせるもので、雨にぬれても水がたまらないようにするには…」と試行錯誤の末に完成したのが、ペットボトルの底を切って逆さまにしたフタ入れです。雨水が溜まったら、底についているフタを外して抜くことができます。

「ペットボトルのフタを外さなくてはいけないことに気付くと、ラベルをはがすことや、ボトルをすすぐことにも気がいくようで、ペットボトルの出し方が良くなったと感じているそうです。

ごみを出す人の気持ちになって考える加藤さんの姿勢が、まわりの皆さんの気づきにつながっています。

「季節ごと」に強化月間を設定して呼びかけ」

南大野田町内会

「ごみ集積所排出実態調査から見えてきた課題を町内にお知らせして解決していきたいと、ずっと町内会役員で話していたんですけど」と語るのは、町内会長の中村さん。それを表現する方法がわからないのが、ずっと悩みの種だったそうです。

この想いが実現したのは、平成二十二年度のこと。きっかけは、パソコンが得意な若手の森さんが推進員になったことです。「町内会役員の担い手を捜していたところ、地元で自営業をしている森さんに行き当たったんです」と中村会長。

声を掛けられた森さんも、ゆくゆくは地域に貢献していきたいと考えていたそうで、二つ返事で引き受けてくれました。



取り組んだのは、三カ月ごとにテーマを決めて広報活動を行うことでした。パソコンを駆使し、色鮮やかなポスターを作成してごみ集積所に掲示しました。一月から三月はプラごみ。プラマークをちゃんと確認してもらうようお願いします。四月から六月は家庭ごみ。カラスの被害がひどかったため、その対策も訴えました」森さんの作っ

た案を、みんなで意見を出し合っただけで、ポスターにしているようで、評判も上々。

地域の中で、ごみ出しに関心を持ってくれる人が徐々に増え、環境にやさしいまちづくりが進んでいます。

「ごみには推進員さん」
「ポスターとペットボトルのフタ入れてダブル効果」
下町町内会

「注意などせずに、あいさつだけして集積所を回っています」と笑顔で語る加藤まさ子推進員。「見回っている人がいることに気づいてもらうだけで、皆さんがごみを出すときに意識してくれる気がします」。

推進員になったばかりの頃の加藤さんは、ごみの出し方を勉強していたものの、どう活動したらいいのか迷っていたそうです。二年目に思い切ってポスター作成の学習会に参加したことをき



つかけに、ペットボトルの出し方ポスターを作ってみました。学習会の成果と、パソコンが得意なご主人の協力もあって、わかりやすいポスターができあがりました。「集積所にポスターを貼ったら、皆さんペットボトルをつぶして出すようになったんですよ」とポスターの効果を実感したそうです。

次に加藤さんが気になったの